

学力向上に向けた大阪市の取組



本市では、学力向上をはじめとする、「めざすべき目標像」に向けて大阪市の教育を進めていくため、「大阪市教育振興基本計画—改革の第2ステージ—（平成29年3月改訂）」を踏まえ、課題や成果を検証しながら取り組んでいます。ここでは、その代表的な取組を紹介します。

1 小学校学力経年調査の実施	P 4 0
2 学習教材データの配信	P 4 0
3 学校力UPベース事業の実施	P 4 1
4 学校力UP支援事業の実施	P 4 1
5 主体的・対話的で深い学びの推進	P 4 2
6 理科教育の充実	P 4 2
7 学力向上支援サポーターの配置	P 4 3
8 英語イノベーション事業の実施	P 4 3
9 ICTを活用した教育の推進	P 4 4
学校図書館活性化事業の実施	
10 学校図書館活用推進事業の実施	P 4 4
11 生活指導支援員の配置	P 4 5
12 校園内研修支援・OJT事業の実施	P 4 5
13 幼稚園・保育所・小学校の連携	P 4 6
14 学校キャラバン隊の派遣	P 4 6
15 小中一貫した教育の推進	P 4 7
16 学校元気アップ地域本部事業の実施	P 4 8

「めざすべき目標像」へ大阪市教育振興基本計画より

全ての子どもたちが学力を身に付けながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し、他者とともに次代の社会を担うようになることをめざします。

そのために、社会が多様化し激しく変化する中で、国際化の進展や未曾有の災害の発生等に立ち向かう「生き抜く力」を備え、未来を切り拓く豊かな子どもたちをばくむようにします。



「大阪市教育振興基本計画」

本市の教育改革の方針です。
詳しくは大阪市のホームページ
（下記 URL）をご覧ください。

<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000348914.html>

1 小学校学力経年調査の実施

平成 28 年度より、大阪市立の全小学校に通う小学校 3 年生から 6 年生までの児童を対象に「小学校学力経年調査」を実施しています。毎年継続して実施することで、児童の学力などの伸びや成長、努力が必要となるところが明らかになります。その結果をもとに家庭で話し合うことなどを通して、目標をもって学習や生活改善に取り組んでほしいと考えています。

また学校では、児童一人一人の学習理解度・学習状況などを経年的に把握し、授業改善や児童一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実に生かしていきます。

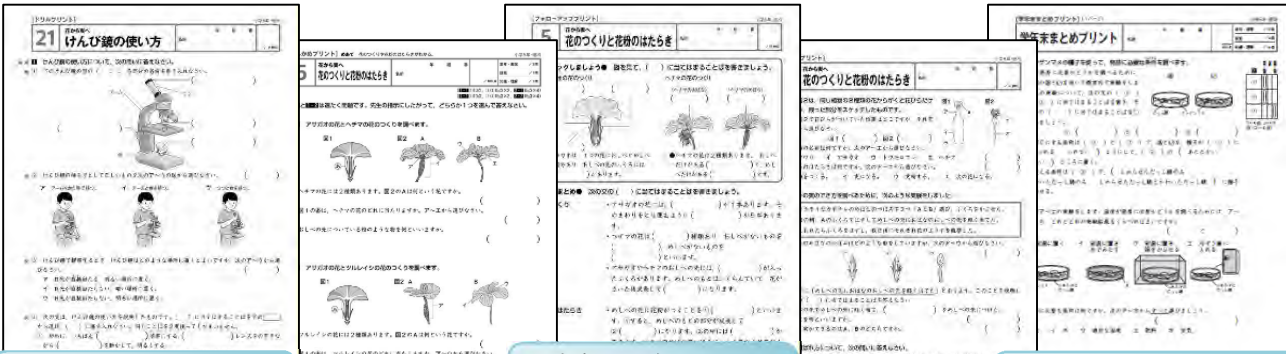
- 平成 30 年 1 月 10 日～12 日の実施期間中、学校ごとに実施日を決定します。
- 調査内容は国語、社会、算数、理科の教科に関する調査と学習・生活状況等に関する調査です。

(担当) 指導部初等教育担当 TEL6208 - 9176

2 学習教材データの配信

平成 26 年度より、全ての小学校・中学校などに、学習教材データの配信を行っています。児童生徒の実態に応じて選択したり編集したりした問題を、授業・放課後学習・家庭学習などで活用することにより、基礎学力や応用・発展・活用問題に対応する力の育成を図っています。

小学校には国語・社会・算数・理科、中学校には国語・社会・数学・理科・英語と、小学校の国語・社会・算数・理科の学習教材データを配信しています。



基礎基本の定着を図る
ドリルプリント

確実な理解を図る
フォローアッププリント

1 年間の学習を振り返る
学年末まとめプリント

学習内容を観点別に評価
できるたしかめプリント

発展的な内容の
チャレンジプリント

配信される学習教材データは、基礎的・基本的な問題はもとより、本市の課題である記述問題や活用問題（応用問題）が充実しており、繰り返しの練習や個に応じた学習などに活用できます。

昨年度より、学年ごとに学習の総まとめができる学年末まとめプリントも配信しています。

各学校では、習熟度別少人数授業や家庭学習などあらゆる場面で活用方法を工夫し、学力の向上に努めています。

(担当) 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

3 学校力UPベース事業の実施

これまでの習熟度別少人数授業の実施も含め、今年度より、「学校力UPベース事業」として、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と、個に応じた指導の一層の充実を目指し、学校長が自校の学力向上の課題に応じて、より効果的に加配教員を活用できるよう、事業を再構築しました。

この「学校力UPベース事業」で、小学校3～6年生の国語・算数、中学校全学年の国語・数学・英語の習熟度別少人数授業を中心に、各学校の実態に合わせたきめ細かな取組の充実を図っています。

「習熟度別少人数授業」では、学習の到達目標に照らし合わせて、その達成状況を把握し、児童生徒のつまづきやその原因などに応じて、個に応じたきめ細かな指導に努め、知識や技能の確実な習得をめざしています。また、複数の教員が協力して授業を行うチームティーチング(T.T)や班ごとに分かれて行うグループ学習など、学校の課題や教科の特性に応じた、様々な指導方法による授業も実施しています。



「習熟度別少人数授業」を実施することで、児童生徒に基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせるとともに、一人一人の発言の機会やじっくり考える機会を確保し、「できる喜び・わかる喜び」を実感させ、児童生徒の確かな学力の向上に努めています。



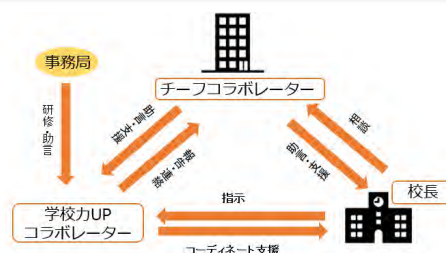
各小中学校で、教員1名を「学校力UPベース事業コーディネーター」として位置付け、児童生徒の実態把握、校内研修の推進、学習効果の検証などを中心となって行うこととしています。また、より効果的な実施を図るため、コーディネーターや授業担当者を対象とした研修も実施し、効果のあった取組例を広めたり、各学校の課題に応じた指導方法の改善について話し合ったりしています。

(担当) 指導部初等教育担当・中学校教育担当 TEL6208 - 9176・9199

4 学校力UP支援事業の実施

全国学力・学習状況調査等において、継続して学力等の課題を有する小学校・中学校(以下、学校力UP支援校)に対し、「学校力UPコラボレーター」を配置し、個々の学校の課題に応じた多面的・総合的な支援を行うことで、学力等の課題解消をめざします。

学校力UP支援校は、チーフコラボレーター、コラボレーターと協働し、学力向上アクションプランに基づき、「課外学習の充実」「学習規律の定着」「授業の充実」「学級経営の充実」「大学等との連携の充実」等の取組を行うことにより、学力等の課題解消をめざします。



(担当) 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

5 主体的・対話的で深い学びの推進

「主体的・対話的で深い学びの推進プロジェクト事業」では、児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進に向けた取組について、委嘱した研究推進委員と協働し、学習・指導方法の不断の改善を図るための実践研究を行い、授業実践や研修会の実施に取り組むとともに、その成果の普及を図ります。

- 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学習・指導方法の改善に係る研究を実施します。
- 公開授業・授業づくり研修会の開催
研究推進委員が公開授業を行い、参加型討議会や大学教授による講話などを通して、授業改善を推進します。
- 成果の共有と情報発信
研究推進委員の実践事例や取組に関する資料などを他の学校でも共有できるよう、情報発信に努め、各学校における主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業づくりに活かします。



（担当） 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

6 理科教育の充実

小学校5・6年生を対象に理科補助員を配置し、理科の授業で行う観察・実験活動を充実させるとともに、企業や団体の技術者と連携した理科の特別授業を実施しています。また、理科観察実験充実プロジェクトを展開し、観察や実験を取り入れた授業づくりを図る実践的研究会を開催しています。

- 40名の理科補助員を、小学校40校に配置し、観察・実験活動を充実させることにより、理科の授業に興味をもち、理科の楽しさを味わうことができる児童の育成をめざします。
- 本年度は小学校80校に対し、17の企業・団体などによる観察・実験を取り入れた「理科特別授業」を行うことにより、児童の理科への関心を高めます。



- 理科の観察実験を充実させるため、研修会場となる拠点校を設置し、教員の観察実験の技能向上に向けた「理科観察実験充実プロジェクト」授業づくり研修会を開催しています。

（担当） 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

7 学力向上支援サポーターの配置

児童生徒の学習意欲の向上と自主学習習慣の定着を図るため、小中学校の校長が自校の課題に応じて、学力向上支援サポーターを配置し、授業や放課後及び長期休業中の補充学習などにおいて、教員と協働して児童生徒の学習支援を行っています。学力向上支援サポーターは「学びサポーター」「理科補助員」の総称です。

- 学びサポーター
授業、朝の学習、放課後の学習支援、長期休業中の補習、自主学習の支援を行っています。
- 理科補助員（再掲）
理科の授業時間を中心に、観察・実験などの実施の支援を行っています。



（担当） 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

8 英語イノベーション事業の実施

グローバル社会において活躍し、貢献できる人材の育成をめざし、自分の考えや意見を英語で伝えることができるコミュニケーション能力を育成するため、ネイティブ・スピーカーの配置等、英語教育の強化を図る取組を行っています。

- 小学校低学年からの英語教育の推進
低学年からの小中一貫した英語教育を、本年度中に全ての小学校で実施します。
- 児童生徒が生きた英語に触れる機会の増加
ネイティブ・スピーカーを各小中高等学校に配置しています。
小学生、中学生、高校生が集中的に英語を使うイベント「イングリッシュ・デイ」を実施しています。



（担当） 指導部教育活動支援担当 英語イノベーショングループ TEL6208 - 9197

9 ICTを活用した教育の推進

全小中学校に基本 40 台のタブレット端末などの ICT 機器を整備し、タブレット端末などを活用した授業を全市で一斉に展開しています。

ICT 機器の活用により、視覚的に分かりやすい授業を行うとともに、子どもたちが自ら考えたことを発表したり、グループやクラスで話し合ったりする学習を充実させ、「自分で考え判断する力」「自分の考えを豊かに伝える力」「最新の ICT 機器を活用する力」の育成を図ります。

- 児童生徒が教え合い学び合う協働的な学びを実現します。
- 思考力、判断力、表現力などにつながる言語活動の充実を図ります。
- 児童生徒一人一人の個に応じた学習の充実を推進します。
- 小中学校の教員を対象に研修を行い、教員の ICT 活用指導力の向上に取り組みます。

学習活動の中で教え合う場面が増えます。

グループで話し合い学び合う場面が増えます。



自分の考えを整理しまとめることができます。

現在、校内 LAN の再構築を行うなど、ICT 機器の機能を十分に活用できる学習環境を段階的に整備しています。

(担当) 大阪市教育センター教育振興担当 指導研究グループ TEL6572 - 0272

10 学校図書館活性化事業の実施 学校図書館活用推進事業の実施

児童生徒の読書活動を推進するための、使いやすく魅力ある学校図書館づくりをめざして、「学校図書館活性化事業」「学校図書館活用推進事業」を実施しています。

蔵書の充実を図るとともに、学校図書館補助員の配置やボランティアの協力により、開館回数の拡大、館内の環境整備や読み聞かせを実施するなど、様々な取組を進めています。

- 大阪市図書標準冊数（小学校 7,000 冊、中学校 8,000 冊）達成のための図書整備を行い、学校図書を充実させています。
- 開館回数を増やすことで、児童生徒の学校図書館利用機会を増やし、調べ学習や読書の機会を増やしています。
- 平成 27 年 10 月から「学校図書館補助員」を各学校に週 1 回配置し、図書館の開館日増や整備に効果を上げています。
- 学校図書館支援ボランティアに対し、講座の実施などの支援を行い、読み聞かせや本の修理などのスキルアップを図っています。



(担当) 中央図書館利用サービス担当学校図書館支援 TEL6539 - 3307

11 生活指導支援員の配置

平成 26 年度より、いじめ・問題行動などに毅然とした対応をとるための体制を構築し、様々な課題を解決するために、警察官経験者や児童生徒の指導経験者を生活指導支援員として 80 名を小・中学校に配置しています。

本年度は、小学校 74 校、中学校 48 校の計 122 校に配置し、週 4 日または週 2 日、支援を行っています。

生活指導支援員は、学校組織の一員として教職員と協働し、以下の業務を行うことで学校を支援し、授業規律の定着を通して学力向上につなげています。

- 問題行動の発生時における児童生徒への指導や不登校児童生徒への対応
- 生活指導サポートセンターなどの関係機関との連携・調整
- 問題行動や不登校などの未然防止に向けた児童生徒及び保護者への指導・助言
- 児童生徒の問題行動や不登校などの課題に対して、学校組織の一員として、協働し解決にあたるなど



(担当) 指導部教育活動支援担当 生活指導グループ TEL6208 - 9174

12 校園内研修支援・OJT 事業の実施

平成 28 年度より、各校園の 2 年目教員の直接指導および授業・保育研究を伴う校園内研修体制づくりへの支援を通して、全ての教員の授業力・保育指導力向上を図るとともに、若手教員育成を中心とした校園内研修の充実・活性化に向けた取組を行っています。

教育指導員が、全ての幼稚園・小中学校を 2 ～ 5 回訪問し、各校園の 2 年目教員への直接指導と、管理職、校内研修主担者、メンター（より経験を積んだ教員）及び若手教員グループに対し、校内研修の計画・立案・実施への支援や授業後の研究協議などでの指導助言を行います。大阪市の「授業研究を伴う校内研修の実施回数」は、小中学校ともに全国平均を大きく上回っており、校内での研修の高まりが見られます。

子どもの主体的・対話的で深い学びを重視した「質の高い授業・保育」の実現に向け、全ての教員が共に学び合い、学び続けることで、各校園のさらなる活性化をめざします。



(担当) 教育センター教育振興担当 基本研修企画グループ TEL6572 - 0657

13 幼稚園・保育所・小学校の連携

就学前教育では、規範意識や基本的な生活習慣、言語及び数を含む概念、運動意欲や体を動かす力など「知・徳・体」をバランスよく育ていけるよう取り組んでいます。

平成 25・26 年度に、市立幼稚園、保育所、小学校、私立幼稚園代表者、教育委員会事務局、こども青少年局で大阪市幼保合同研究協議会を立ち上げ、「就学前教育カリキュラム」を策定し、平成 27 年度より全市立幼稚園と公立保育所で、本カリキュラムに基づいた実践を行っています。

「『知・徳・体』をバランスよく育て」「指導者の教育的意図をもった働きかけを明確にする」とともに、「子どもを取り巻くすべての大人に必要な配慮」についても、平成 27 年度作成の概要版などを活用して、保護者などにも啓発及び周知を図っています。

今年度は、市内の公立私立の幼児教育・保育施設の教職員等が集まり、「就学前教育カリキュラム改訂委員会」を立ち上げ、30 年度中に改訂案の完成をめざします。また、市内全ての就学前施設対象の研修会も継続実施し、本カリキュラムを踏まえた実践及び研究に取り組む「パイロット園所」を指定し、各施設の取組を全市に向けて発信します。

大阪市教育振興基本計画における 2 つの「最重要目標」の達成に向けた第一歩は、幼児期における基礎教育であるとの認識のもと、全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上をめざすとともに、保育所、幼稚園、小学校の交流や連携の充実に向けて促進していきます。



(担当) 指導部初等教育担当 幼稚園教育グループ TEL6208 - 8173
こども青少年局保育・幼児教育センター TEL6952 - 0173

14 学校キャラバン隊の派遣

平成 20 年度より、幼稚園・小学校を中心に教育委員会の指導主事チームを派遣し、「子どもの生きる力を育む家庭のちから」をテーマに、保護者や地域住民、教職員との懇談会を開催しています。

子どもの生きる力の育成には、基本的な生活習慣（「早寝、早起き、朝ごはん」など）の確立、学習環境の整備、自尊感情の育成などが大切であることを保護者に啓発しています。平成 26 年度からは、携帯電話・ゲーム機の使い方や問題点について、平成 28 年度からは「親子のコミュニケーション」「ほめ方」も話題に取り上げ、聞き手のニーズに合わせた「メニュー編」を新たに追加して取り組んでいます。

今後も学校キャラバン隊を派遣し、啓発活動に取り組めます。

参加者の声

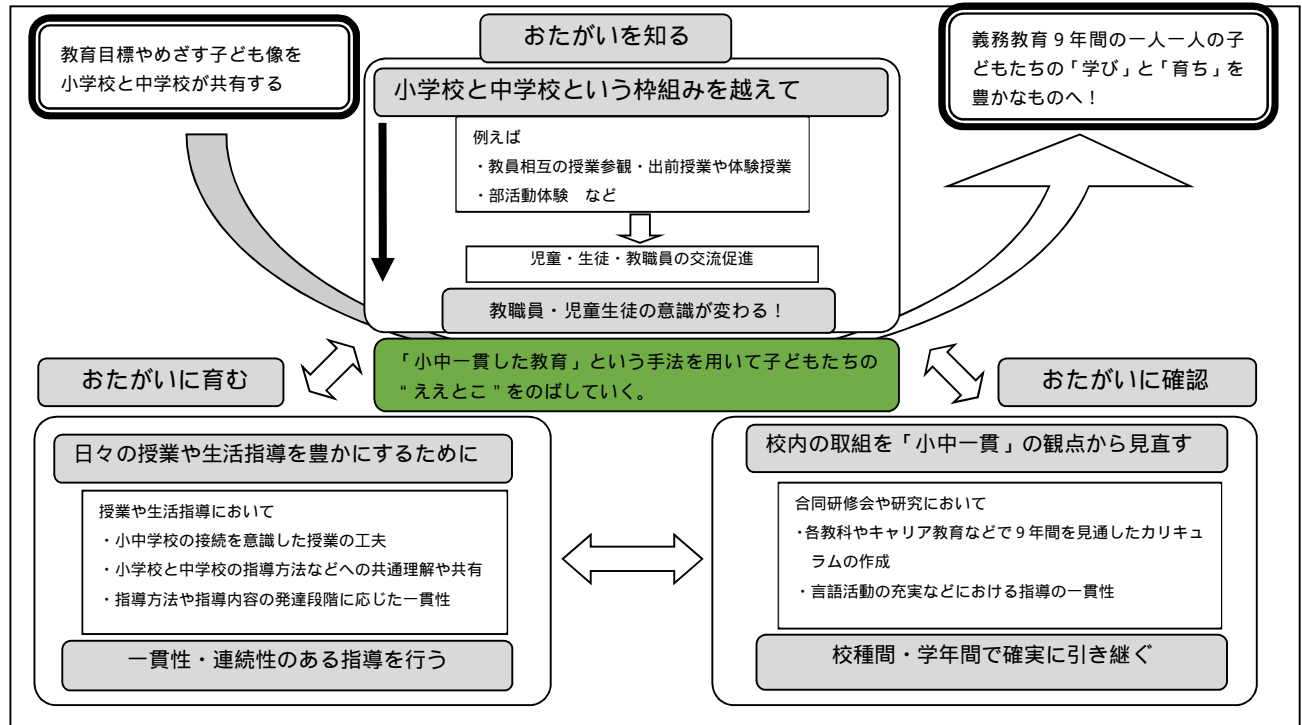
- ・生活リズムや、学習環境を整えること、家庭内のルールの確立、ほめながら子育てしていく大切さがよくわかりました。
- ・わかっている、ついつい後まわしになってしまっていることがあったと気付かされました。声かけ、コミュニケーション、がんばっていきます。
- ・今日からすぐに取り組んで、親子関係をしっかり築いていきたいと思います。

(担当) 指導部教育活動支援担当 TEL6208 - 8128

15 小中一貫した教育の推進

全ての小中学校では、平成 22 年 3 月に策定した「大阪市小中連携推進プラン」に則り、学習指導要領に準拠した教育課程を 9 年間見通して編成するなど、学力向上、体力向上、健全育成などを柱に小中一貫した教育に取り組んでいます。

小中一貫した教育推進のポイント（リーフレットより）



< 施設一体型小中一貫校を設置しています >

やたなか小中一貫校
小中一貫校 むくのき学園
いまみや小中一貫校
日本橋小中一貫校
咲洲みなみ小中一貫校（平成30年 4 月開校予定）

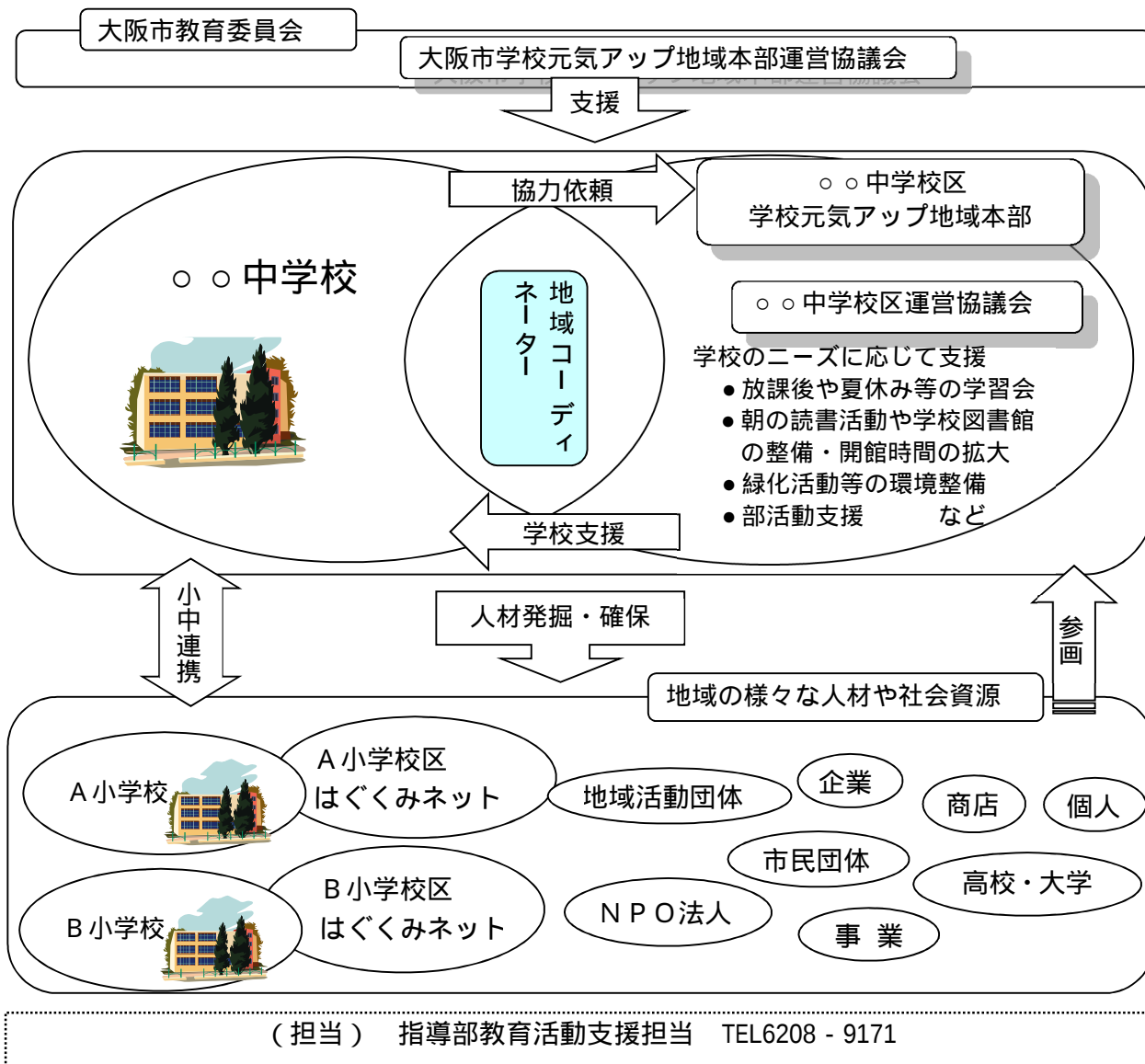
施設一体型小中一貫校で推進されている小中一貫した教育の成果を、全市の小中学校へ広めます

（担当） 指導部教育活動支援担当 英語イノベーショングループ TEL6208 - 9197

16 学校元気アップ地域本部事業の実施

全中学校区において、地域の方々の協力を得ながら、地域社会全体で子どもを育てる仕組みとして「学校元気アップ地域本部」を設置し、生徒の生活習慣の確立や学力向上などの課題解消に向け、各学校のニーズに応じた取組を行っています。

学校支援の活動として、地域コーディネーターを中心に地域の方々をはじめとするボランティアにより、学習会の開催や図書館の整備などで子どもたちの学習活動を充実させるとともに、学校の緑化や部活動の支援などで教職員が教育活動に一層専念できる環境づくりをしています。



効果があった取組例の情報提供にご協力いただいた学校

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| ・日吉小学校 | ・東中本小学校 | ・平野西小学校 | ・大開小学校 |
| ・古市小学校 | ・市岡小学校 | ・南百済小学校 | ・大桐小学校 |
| ・茨田西小学校 | ・阿倍野小学校 | ・阪南小学校 | ・新豊崎中学校 |
| ・鶴橋中学校 | ・加賀屋中学校 | ・天下茶屋中学校 | ・堀江中学校 |
| ・東住吉中学校 | ・南港北中学校 | ・市岡東中学校 | |
| ・東中学校 | | | |

など

《問合せ先》

・指導部

教育活動支援担当（学力向上） 6208-9039

・大阪市教育センター

教育振興担当（指導研究） 6572-0667

いっしょにのぼそう！ 子どもの学力

大阪市教育局

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに、大阪市の子どもたちの力を伸ばすために大切なことをまとめています。家庭・学校・地域が連携して子どもたちの学力向上に取り組みましょう！

家庭学習



「がんばっているよ！」「できそうだね！」
ご家庭で見直してみましょう！

☐ 親子で読書を楽しみましょう

- ・ 読書は、言葉で表現する力を高め、豊かな感性を育みます

☐ 学習したことを活用しましょう

- ・ 「買い物の時に計算をする」や「地域社会にあるローマ字表示の案内や看板を読んだり書いたりする」などの活動も効果的です

☐ 日々の発見や感動を書きとめましょう

- ・ 親しい方へ手紙を書いたり、字数を決めて日記を書いたりすることも大切です

☐ 予習復習や宿題以外の学習にも取り組みましょう

- ・ 声かけや励ましが、やる気につながります

生活

☐ 早寝早起きをし、生活のリズムをつくりましょう

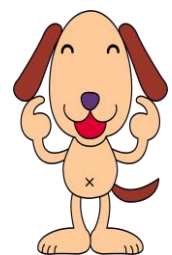
- ・ 一日の生活のリズムを作ることが大切です

☐ 朝食をとり、一日の元気なスタートをきいましょう

- ・ 朝食は、やる気・集中力・体力にとって大切です

☐ ゲーム機や携帯電話などの使い方のルールを決めましょう

- ・ 「時間を決めて使う」「トラブルのもとにならないようマナーを守る」などのルールづくりが大切です



公益社団法人日本PTA全国協議会

<http://www.nippon-pta.or.jp/common/amcpoa00000008mt-att/1a0e415f32c81bd56cf09c9abb5c1be7.pdf>

「正しく知ろう、使い方 家庭で話そう わが家のルール」

☐ 新聞やテレビなどのニュースをもとに会話しましょう

- ・ 地域や社会で起こっている出来事に関心を持つことは大切です

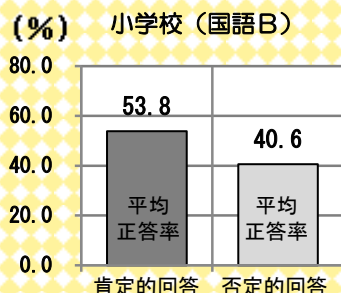
「基本的生活習慣・家庭学習」と「学力」との関係

～平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果から～

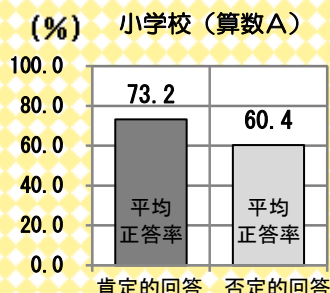
- ◆ 基本的生活習慣やテレビゲームや携帯電話・スマートフォンの使用時間、1日当たりの勉強時間は、子どもたちの学力と大きく関係しています
- ◆ 次の質問項目について肯定的回答をしている児童の方が平均正答率が高い傾向にあります
また、新聞やテレビなどのニュースをみて、社会や地域に関心を持つ児童ほど平均正答率が高い傾向にあります

※ 肯定的回答とは「している」「どちらかといえばしている」を合わせた回答
否定的回答とは「あまりしていない」「全くしていない」を合わせた回答
※ グラフの数値は、各項目における大阪市の児童の平均正答率

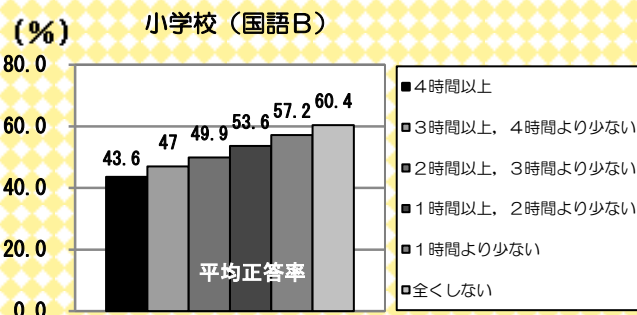
毎日、同じくらいの時刻に起きている



朝食を毎日食べている



1日当たりのテレビゲームの使用時間



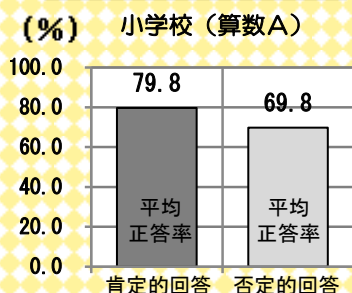
「朝食をきちんと食べる」「毎日、同じくらいの時刻に起きる」など、規則正しい生活が大切です

携帯電話等での通話やメール、インターネットの使用やゲームをする時間などについて話題にし、ルールを作りましょう

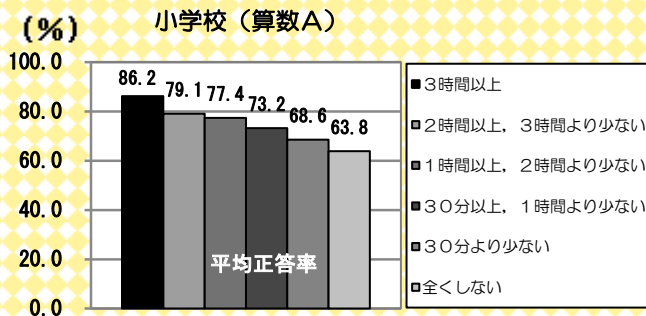
家庭学習の内容や時間について、自分で計画を立てて取り組めるように話し合しましょう
また、うまく進まない時には、励ましの声をかけましょう

子どもと積極的に会話をしましょう
ニュース等を話題にすることも大切です

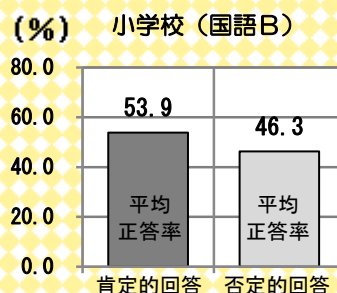
自分で計画を立てて勉強している



1日当たりの勉強時間



テレビなどのニュースを見ている



★「平成 29 年度 大阪市『全国学力・学習状況調査』の結果について」を大阪市ホームページに掲載しています。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000412767.html>

いっしょにのぼそう！ 子どもの学力



大阪市教育委員会

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに、大阪市の子どもたちの力を伸ばすために大切なことをまとめています。家庭・学校・地域が連携して子どもたちの学力向上に取り組みましょう！

家庭学習



「がんばっているよ！」「できそうだね！」
ご家庭で見直してみましょう！

☐ いろいろな本を読みましょう

- ・ いろいろな本や文章を読むことは、知識を広げ、考え方を深めます

☐ 学習したことを復習しましょう

- ・ 「計算練習」「漢字練習」など、基礎的・基本的な学習を繰り返し行うと効果的です

☐ 文章を書く機会を増やしましょう

- ・ 改まった表現や漢字を適切に使って手紙を書くことや、日記を書くことも有効です

☐ 宿題以外の予習や復習にも計画的に取り組みましょう

- ・ 声かけや励ましが、やる気につながります

生活

☐ 同じ時刻に起きて、生活のリズムをつくりましょう

- ・ 一日の生活のリズムを作ることが大切です

☐ 朝食をとり、一日の元気なスタートをきいましょう

- ・ 朝食は、やる気・集中力・体力にとって大切です

☐ ゲーム機や携帯電話などの使い方のルールを決めましょう

- ・ 「時間を決めて使う」「トラブルのもとにならないようマナーを守る」などのルールづくりが大切です



公益社団法人日本PTA全国協議会

<http://www.nippon-pta.or.jp/common/amcpoa00000008mt-att/1a0e415f32c81bd56cf09c9abb5c1be7.pdf>

「正しく知ろう、使い方 家庭で話そう わが家のルール」

☐ 新聞やテレビなどのニュースをもとに会話をしましょう

- ・ 地域や社会で起こっている出来事に関心を持つことは大切です

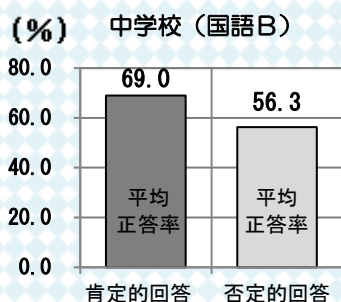
「基本的生活習慣・家庭学習」と「学力」との関係

～平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果から～

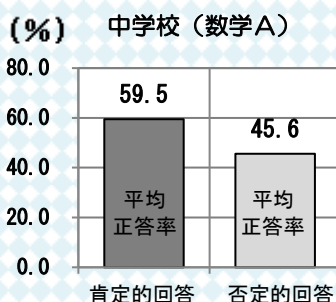
- ◆ 基本的生活習慣やテレビゲームや携帯電話・スマートフォンの使用時間、1 日当たりの勉強時間は、子どもたちの学力と大きく関係しています
- ◆ 次の質問項目について肯定的回答をしている生徒の方が平均正答率が高い傾向にあります
また、新聞やテレビなどのニュースをみて、社会や地域に関心を持つ生徒ほど平均正答率が高い傾向にあります

※ 肯定的回答とは「している」「どちらかといえばしている」を合わせた回答
否定的回答とは「あまりしていない」「全くしていない」を合わせた回答
※ グラフの数値は、各項目における大阪市の生徒の平均正答率

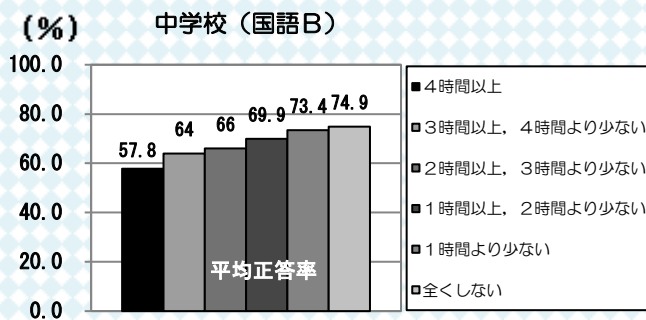
毎日、同じくらいの時刻に
起きている



朝食を毎日食べている



1 日当たりのテレビゲームの使用時間



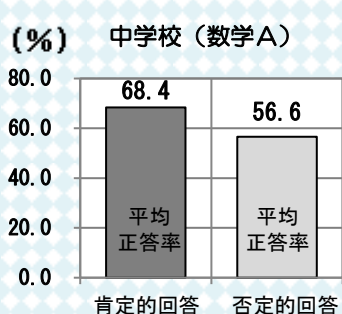
「朝食をきちんと食べる」「毎日、同じくらいの時刻に起きる」など、規則正しい生活が大切です

携帯電話等での通話やメール、インターネットの使用やゲームをする時間などについて話題にし、ルールを作りましょう

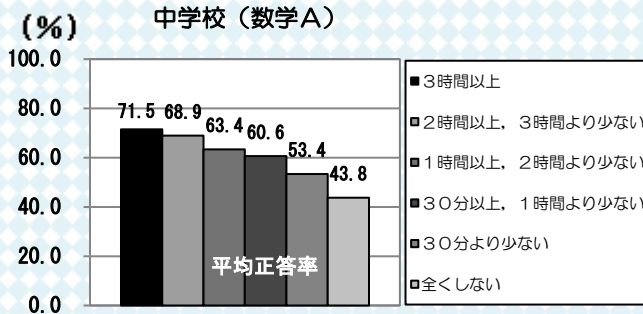
家庭学習の内容や時間について、自分で計画を立てて取り組めるように話し合しましょう
また、うまく進まない時には、励ましの声をかけましょう

子どもと積極的に会話をしましょう
ニュースなどを話題にすることも大切です

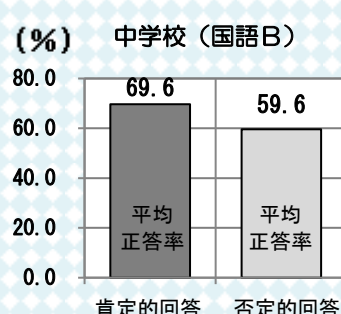
自分で計画を立てて
勉強している



1 日当たりの勉強時間



テレビなどのニュース
を見ている



★「平成 29 年度 大阪市『全国学力・学習状況調査』の結果について」を大阪市ホームページに掲載しています。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000412767.html>

大阪市の授業のスタンダード

3つの^{まなび}学beeを

日々の授業に取り入れましょう！



H29全国学力・学習状況調査の結果から

全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに、大阪市の授業のスタンダード＝「3つの^{まなび}学bee」の必要性が考えられました。

授業を振り返り、明日の授業に「3つの^{まなび}学bee」を取り入れてみましょう！

授業が変われば、子どもが変わります。

考え、表現する^{まなび}学bee

習得した知識を使って自分の考えを形成して、表現したり
創造したりする^{まなび}学beeが必要です。



教科の調査から必要だと分かったこと…

- ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと。(小学国語)
- ・表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと。(中学国語)
- ・仮の平均を用いた平均の求め方を言葉や式を用いて説明すること。(小学算数)
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。(中学数学)

指導方法の調査から必要だと分かったこと…

- ・自分の考えを発表する機会を設けること。(学校質問紙)
- ・子どもの様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をすること。(学校質問紙)
- ・難しいとは思わずに、自分の考えを表現するようにすること。(児童生徒質問紙)

→ 全ての子どもが、能動的に学習に取り組む中で自分の考えをもち、少なくとも1回は、書く、話すなどの方法で考えたことを表現する授業をしましょう。

授業のはちみつ！ あなたの授業は、みつばちり？



まなび 話し合う学bee

自らの考えを広げ深める対話的な学びが必要です。



教科の調査から必要だと分かったこと…

- ・物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。（小学国語）
- ・資料を的確に分類整理できたかを判断できるようにする。（小学算数）
- ・状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりすること。（中学国語）
- ・事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明できるようにすること。（中学数学）

指導方法の調査から必要だと分かったこと…

- ・自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できるようにすること。（児童生徒質問紙）
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりようにすること。（児童生徒質問紙）
- ・話し合う活動を授業などで行うこと。（学校質問紙）

➡ 全ての子どもが、少なくとも1回は友達同士で話し合い、協働的に学び合う授業をしましょう。



まなび めあてを振り返る学bee

興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、振り返って次につなげる学びが必要です。



教科の調査から必要だと分かったこと…

- ・計算のきまりについて確認すること。（小学算数）
- ・漢字や語句など基礎的基本的な事項を定着させること。（小学国語・中学国語）

指導方法の調査から必要だと分かったこと…

- ・授業の中でめあて、ねらいをしっかり提示すること。（学校質問紙）
- ・課題に対して、自ら考え、自分から取り組むようにすること。（学校質問紙・児童生徒質問紙）

➡ 全ての子どもが、授業のはじめに「何を学習するのか」めあてを明確にもち、授業の終わりに「何が分かったか、できるようになったか」振り返る授業をしましょう。